

東京学芸大学家庭科教室 研究室紹介

家庭科教室の各研究室の様子をご紹介します！

- 藤田研究室（家庭科教育学）
- 渡瀬研究室（家庭科教育学）
- 赤塚研究室（家庭科教育学）
- 倉持研究室（保育学・児童学）
- 塚崎研究室（被服整理学・染色化学）
- 星野研究室（食物学）
- 萬羽研究室（住居学）

家庭科教育学

藤田研究室

専門分野

◆家庭科教育学

- ✧ 学習者の特質を明らかにする研究
- ✧ 家庭科の指導方法に関する研究

◆家族関係学

- ✧ 家事分担に関する研究

研究室の特徴

- ◆ 児童／生徒や教員に対して質問紙調査やインタビュー調査を行ったり、授業分析や教科書分析などを実施し、よりより家庭科教育を検討しています。
- ◆ ゼミ生は院生も含めて仲良しで、自主的に学び、研究を進めています。
- ◆ 卒業・修了生の9割以上が、小中高等学校の教員として全国で活躍しています。



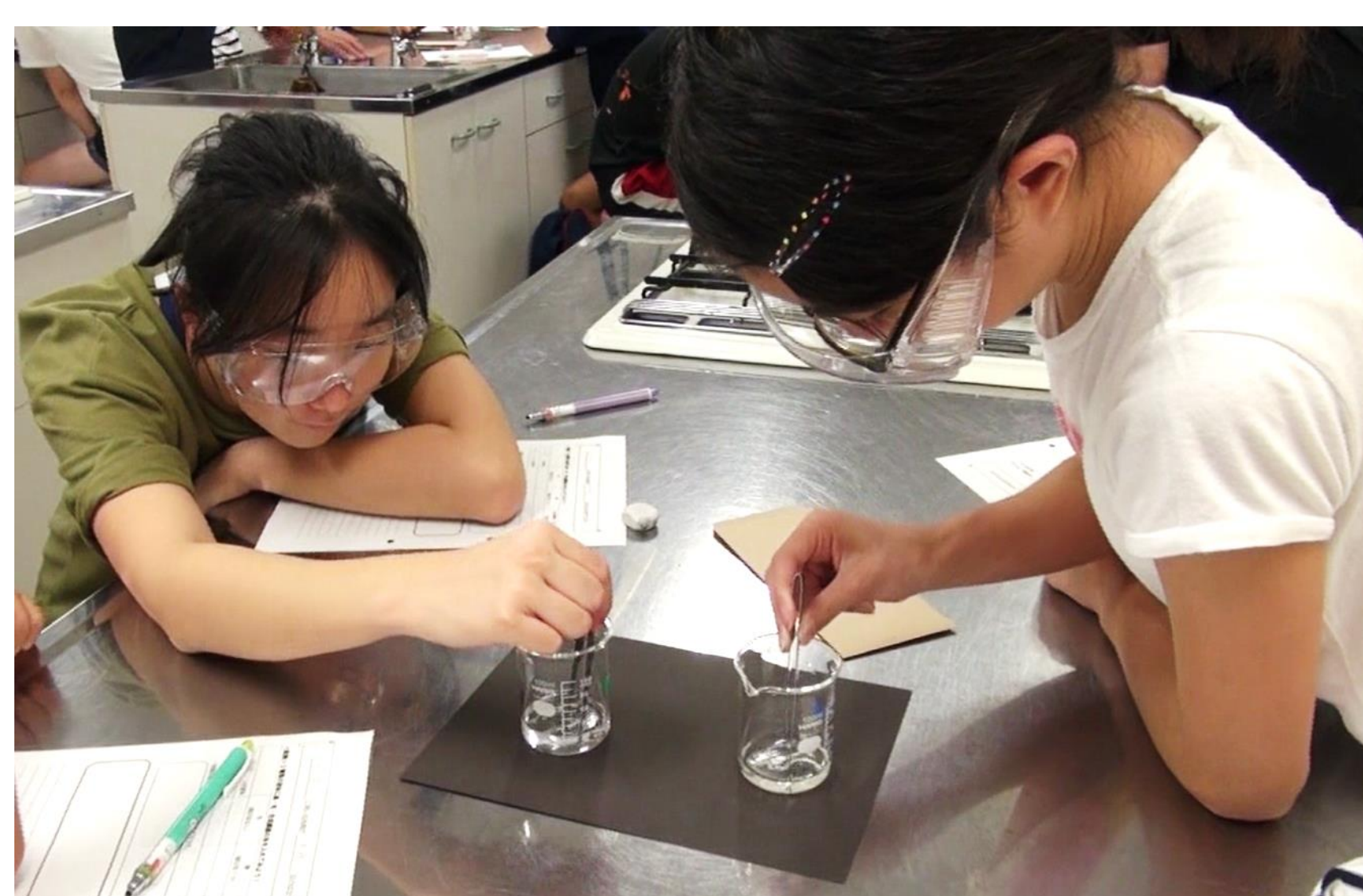
4年生ゼミの様子



卒業式(完成した卒論と学位記を手に)

これまでの卒業研究・修士論文の主なテーマ

➤ 家庭科の授業における学習レリバンスとコンピテンシーの育成

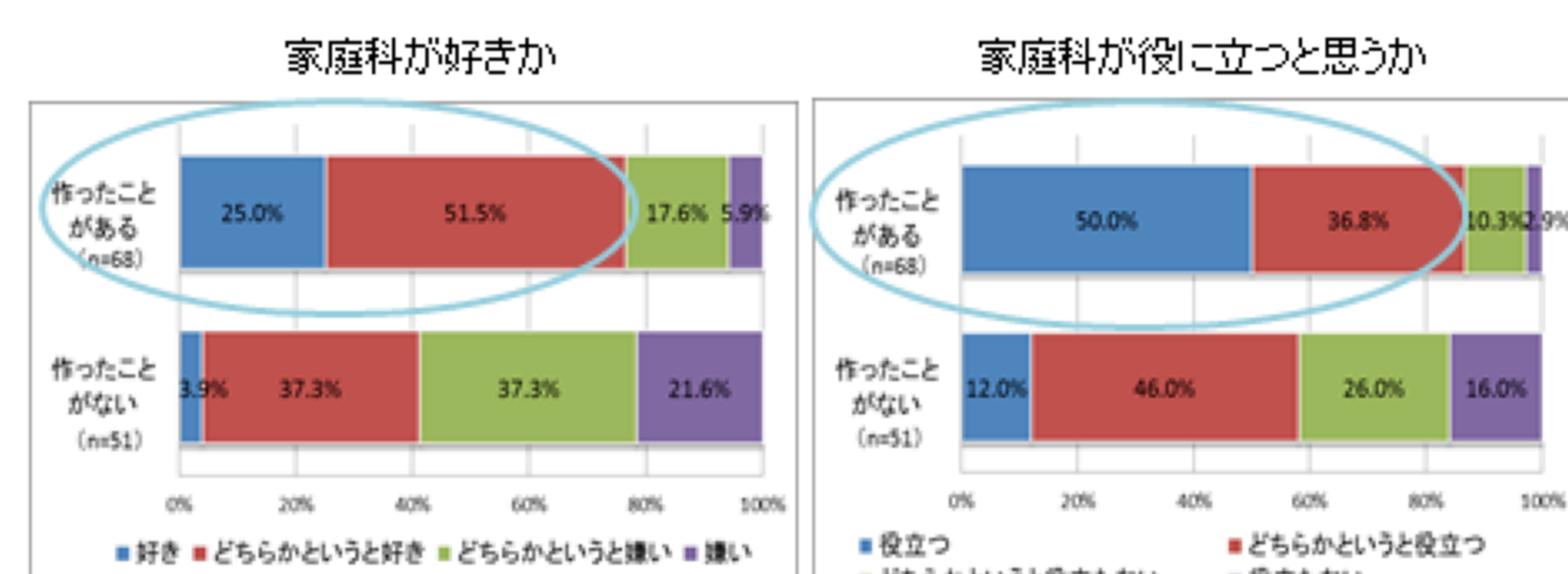


中学校の授業を録画して記録し、どのような資質能力が育成されているのか、資質能力が生活実践につながっているのか、質問紙調査とともに分析しました。

洗濯に関する生活実践行動の規定要因 (重回帰分析結果)		
説明変数	従属変数	「洗濯」因子得点
		β
知識 (単元後)		
批判的思考力		-.45**
独創性・課題への発想力		
省察力・伝達力		
先を見通す力		
協働・解決力		.30*
追求・社会への貢献意識		
協力しあう心		
自己研磨力		
他者に対する受容・共感・敬意		
態度・態度・態度		
家庭科 現在のレリバンス		.36***
洗濯 現在のレリバンス		.20*
家庭科 将来的レリバンス		
洗濯 将来的レリバンス		
F値	8.91***	
R ²	.32	
調整済みR ²	.28	

➤ 中学生の主食選択:家庭科教育への意識及び実践状況との関連

(4) 家庭科教育への意識と調理実践状況の関連



家庭科に肯定的な意見の生徒ほど家庭での調理実践率は高い

➤ 大学生のミシンに関する知識・技能の習得状況と苦手意識を減らす指導方法の検討

4. 結果⑥(大学生のミシンに関する技能)

- 「ボビンに下糸を巻く」、「上糸をかける」、「下糸を引き出す」の準備段階の操作を正しくできた人は少なかった
- 「覚えていないからできない」が最も多かった
- うろおぼえの状態で行っている人が多く、細かい間違いが多かった

例1.天秤に正しく糸をかけることができない

例2.針付近に正しく糸をかけることができない



図7 ミシン操作の間違いの一例(一部加工)

4. 結果⑤(苦手意識と知識・技能の定着)

- 苦手意識を持っている人は、知識・技能が定着していない傾向にある。

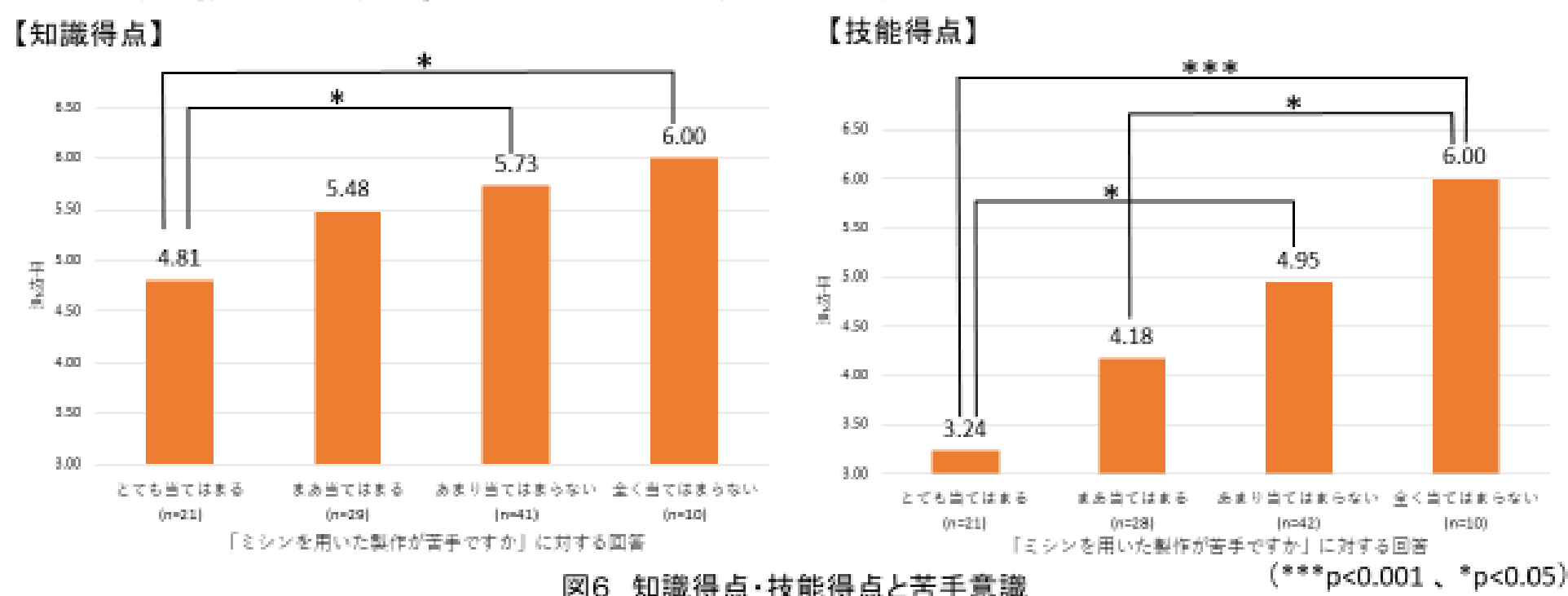
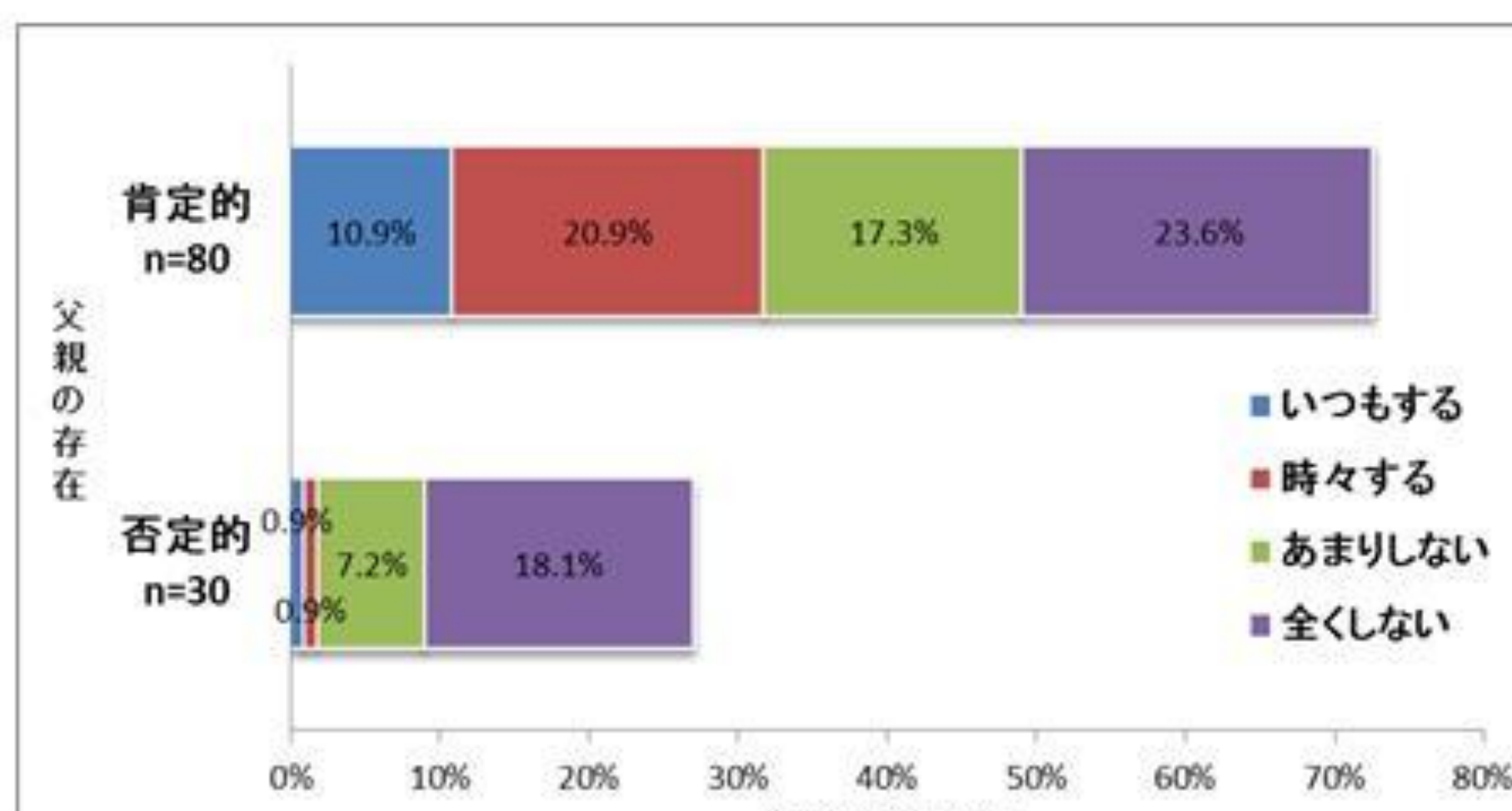


図6 知識得点・技能得点と苦手意識

実技調査と質問紙調査を組み合わせ分析しました。

➤ 家事分担から見る家族関係

7.父親の存在と家事状況(食事の準備)の関連



授業の様子

➤ 初等家庭科教育法(2年A類必修)



実際に小学生が家庭科の授業で製作する作品を作り、指導すべき内容を確認しています。



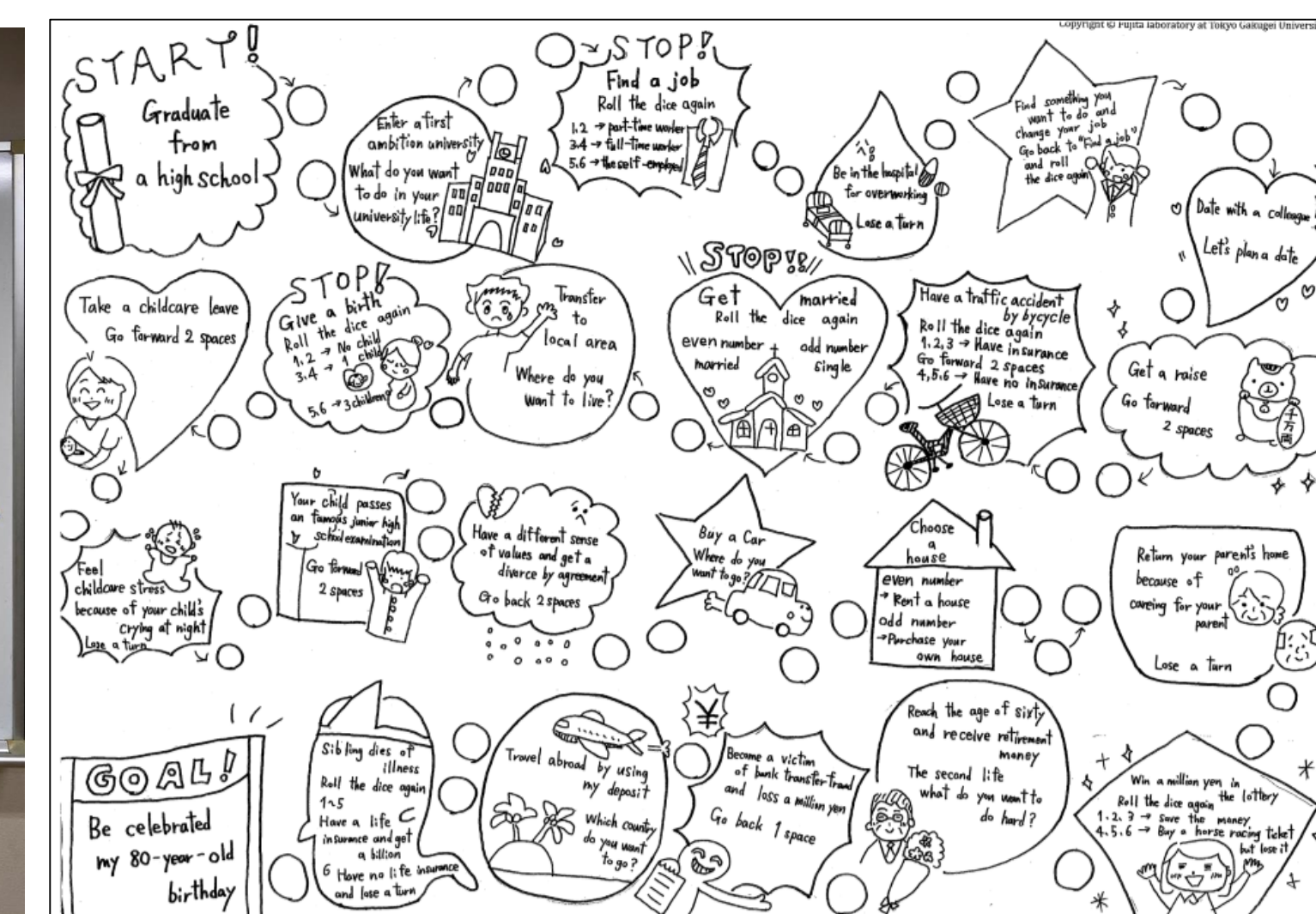
ボタンの付け方のポイントなど、子どもたちに向けてわかりやすく指導するための工夫を皆で考えます。

➤ 中等家庭科教育法III(3年B類必修)

貼り物(掲示物)を使った授業方法の検討を行いました。



人生すごろくを実際に作った上で、授業の作り方を考えます。





専門分野

家庭科教育学

<主な研究テーマ>

- 近現代の家庭科教育史研究
欧米の家庭科カリキュラム研究
- 近現代におけるライフスタイル形成
- 高齢期における生活と地域社会

研究室の特徴

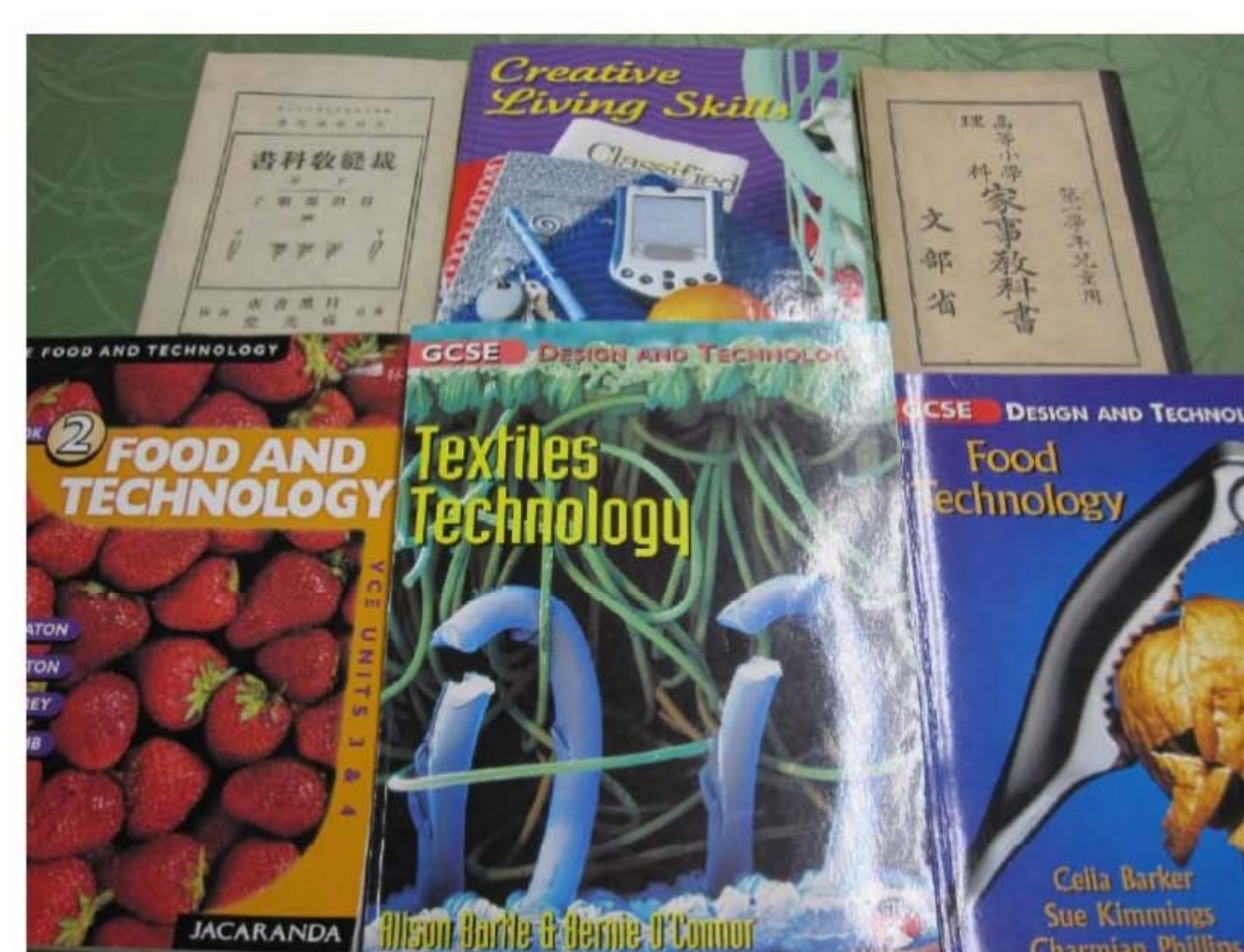
- 📢 小・中・高等学校における家庭科教育について
 - ・児童・生徒の学習実態に基づくカリキュラムの改善
 - ・学習内容／学習教材の検討
 - ・・・等について、各種文献調査、質問紙調査等の手法を用いて研究しています。
- 📢 「高齢期におけるライフスタイル」「近現代におけるライフスタイルの変遷」等についてヒト・モノ・コトの面から検討しています。
- 📢 「地域社会の生活に関する研究」や、生活事象を通して見る友人・家族等との「人間関係」について検討しています。

過去のゼミ学生の卒業研究テーマ

- 家庭科教育の教材・指導法の検討
 - ・小学校における地域に根差した家庭科の授業の在り方
 - ・小学校家庭科における防災・減災に関する学習の導入
 - ・教員養成課程（小学校）の大学生の食生活指導に対する意識

- 地域社会の生活に関する研究
 - ・岩手県における消費生活相談員の現状と課題
 - ・大槌町における若者世代の職業選択
 - ・全国の自治体における『父子手帳』発行状況とその活用方法
 - ・フィンランドの出産・子育て支援の日本における有用性 ～日本版ネウボラの取り組みから～
 - ・酒類の消費状況の変化ー若者のアルコール離れは本当に進んでいるのかー

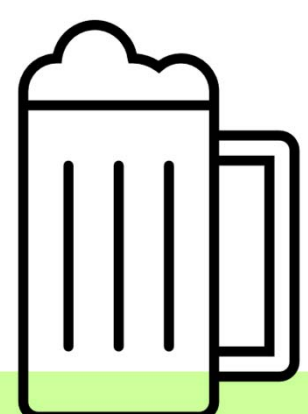
- 世界の家庭科教育カリキュラムに関する研究
 - ・イギリスの食生活における調理技能の扱い
 - ・アメリカの中等教育におけるキャリア教育



日本・世界の家庭科教科書



- 高齢者観／高齢期のQOLに関する研究
 - ・高齢期の趣味活動と生きがい観
 - ・高齢者を対象とした配食サービスの現状と課題
 - ・高齢者のQOL向上を視点におく介護食の研究
 - ・高等学校における高齢者とのかかわりに関する学習の現状



授業の様子

家庭科カリキュラム論



“理想の家庭科カリキュラム”
発表会

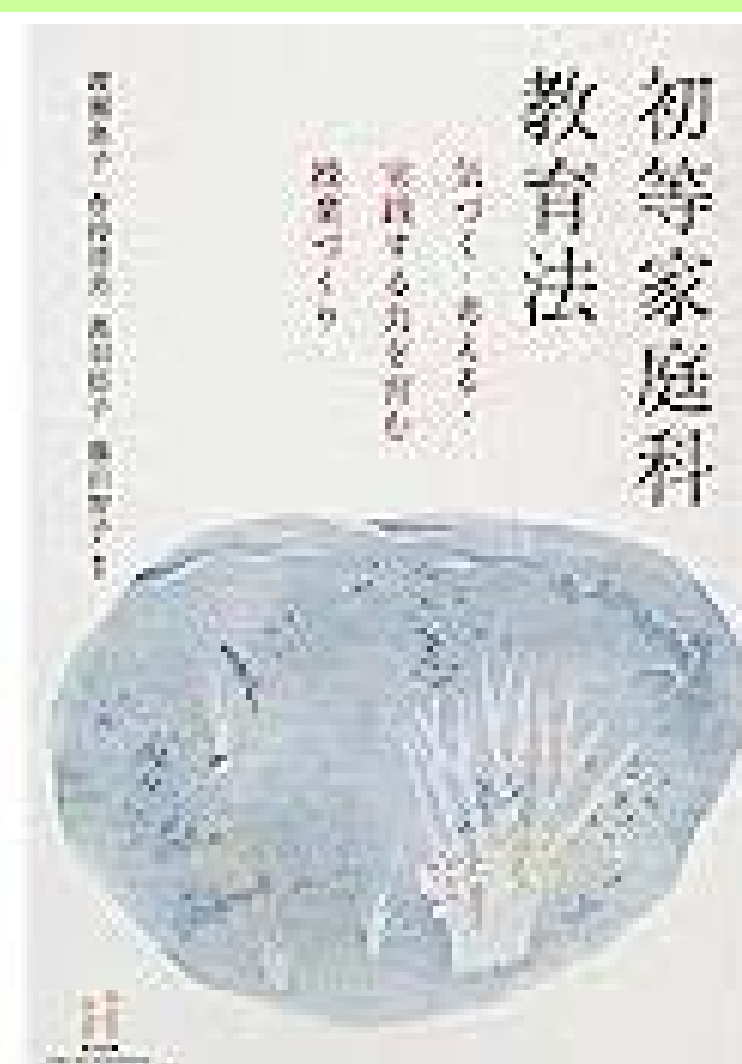
初等家庭科教育法



小学校の教材研究
(フェルトのネームプレート)



小学校における家庭科の授業
について検討します



中等家庭科教育法Ⅱ

大学院



少人数による演習が中心



専門分野

- 家庭科教育
歴史
背景学問・家政学との関係
教材開発
小・中・高の系統性
- 生活経営学
生活資源とEmpowerment
- エシカルコンシューマー
持続可能な社会と生活

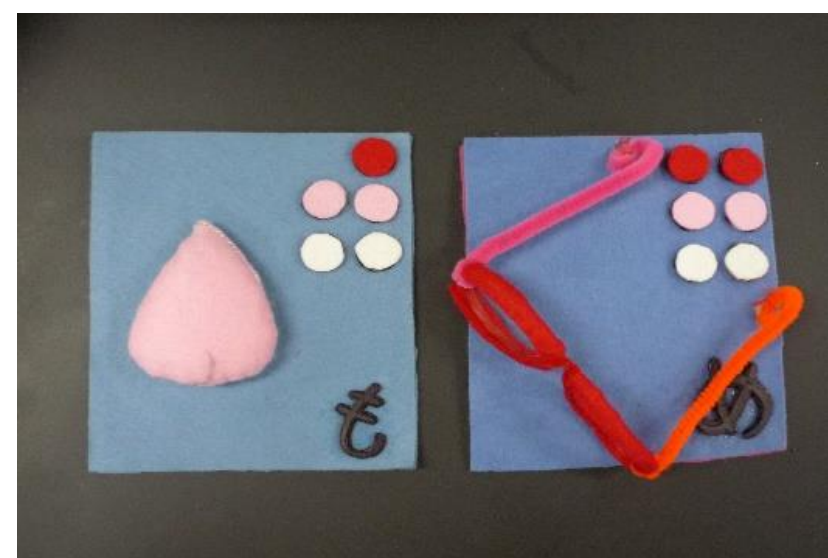
研究室の特徴

- 「家庭科教育」は、生活を主体的に創造する力、持続可能な社会を構築する力、何より平和で誰もが幸せになるための力を身につける学びととらえます。
- 生活とは、
 - ・人間が人間らしく生きるための諸欲求の充足過程
 - ・生活は連続している
 - ・他人とは代われない
 - ・生活主体でなければならないSDGsの目標達成の2030年に向けて、家庭科の学びと実践するための生活課題をテーマとした教材開発についての研究をしています。

卒業研究論文テーマ

- 高等学校家庭科における障がい理解教育を取り入れた授業実践の提案

製作した点字かるたの例



遊んでいる様子



- ・基本的な縫い方を習得し、作品に活用することができる。
- ・手で触ってわかるように、工夫をすることができる。

- 小学校家庭科と生活力

全ての保護者が「自身の子どもに主要科目と同様にしっかりと家庭科を学習してほしい」と回答していた。

表4 「自分でできること」のそれぞれの割合(全体)

設問	◎	○	△	×
①包丁を安全に使って料理することができる。	52.6%	42.1%	5.2%	0%
②一食分の食事を作ることができる。	36.8%	36.8%	21.0%	5.2%
③安全にお湯をわかすことができる。	63.1%	21.0%	10.5%	5.2%
④ごはんを炊くことができる。	52.6%	10.5%	15.7%	21%
⑤電子レンジ・オーブントースターを安全に正しく使うことができる。	73.6%	10.5%	15.7%	0%

⑥食器を洗い、片付けることができる。	68.4%	31.5%	0%	0%
⑦着る服を自分で選んでいる。	57.8%	10.5%	21.0%	10.5%
⑧洗濯物を干し片付けることができる。	36.8%	52.6%	10.5%	0%
⑨自分の部屋や勉強机など身の回りのものを自分で整理整頓することができる。	31.5%	42.1%	26.3%	0%
⑩家事の手伝いを積極的にしている。	31.5%	36.8%	26.3%	5.2%

⑪お風呂掃除ができる。	63.1%	10.5%	15.7%	10.5%
⑫ごみの分別を意識している。	57.8%	15.7%	15.7%	10.5%
⑬地球温暖化について知っていて、環境にやさしい生活を心がけている。	10.5%	63.1%	15.7%	10.5%
⑭1人で留守番することができる。	94.7%	0%	5.2%	0%
⑮縫い針やミシンを安全に使うことができる。	63.1%	31.5%	0%	5.2%

- 年中行事を家庭科でどう扱うか

- ① 自然からの恵みを実感できる。
 - ② 四季の変化を感じられる。
 - ③ 日本や地域における伝統文化の特色・魅力を知ることができる。
 - ④ 家族や地域の人々とのつながりが生まれる・深まる。
 - ⑤ 暮らしの知恵が得られる。
- ① 生活のリズムを作る。
 - ① 幸福度を高める可能性がある。

表4は、各設問に対して、子ども自身が「◎...よくあてはまる」「○...あてはまる」「△...あてはまらない」「×...全くあてはまらない」を回答した結果である。

授業の様子

- 中等家庭科教育法
(A類選択・B類必修)

1) 中学校「技術・家庭(家庭分野)」と高等学校「家庭」における教育課程の枠組・特徴が理解できる
2) 日常生活における現実課題について、家庭科の学習目標を抽出し、学習内容が具体化できる
3) 「実践的・体験的学習」場面での学習方法を適切に選択し、指導過程が組み立てられる
4) 中学校「技術・家庭(家庭分野)」における学習指導を構想することができる
模擬授業を1人で20分、体験・考察する。

- 初等家庭科教育法
(A類・B類選択)

① 小学校家庭科の教科目標・内容を理解する。
② 教科目標・内容を踏まえた指導方法を知り、実践へつなげていくことができる。
③ 小学校家庭科の学習指導案を作成できる。
模擬授業を各人、時間を決めて、体験・考察する。

- 授業観察演習
(A類・B類選択)

・基礎実習の授業の様子を観察することを通して、教育実習の意義について理解を深め、次年度の実習への問題意識について記述することができる。
・授業視聴を通して学習指導案の構成や、その役割について理解することができる。
・授業記録をとって観察し、授業について多様な見方を出し合うことを通して、授業観察の視点(机間巡視、板書計画、発問の想定等)を持つことができる。

保育学・児童学

倉持研究室

専門分野・研究内容

■ 保育学心理学・児童学

家庭科の保育学習
乳幼児の生活と保育
就学前施設での生活
子育て支援

研究室の特徴

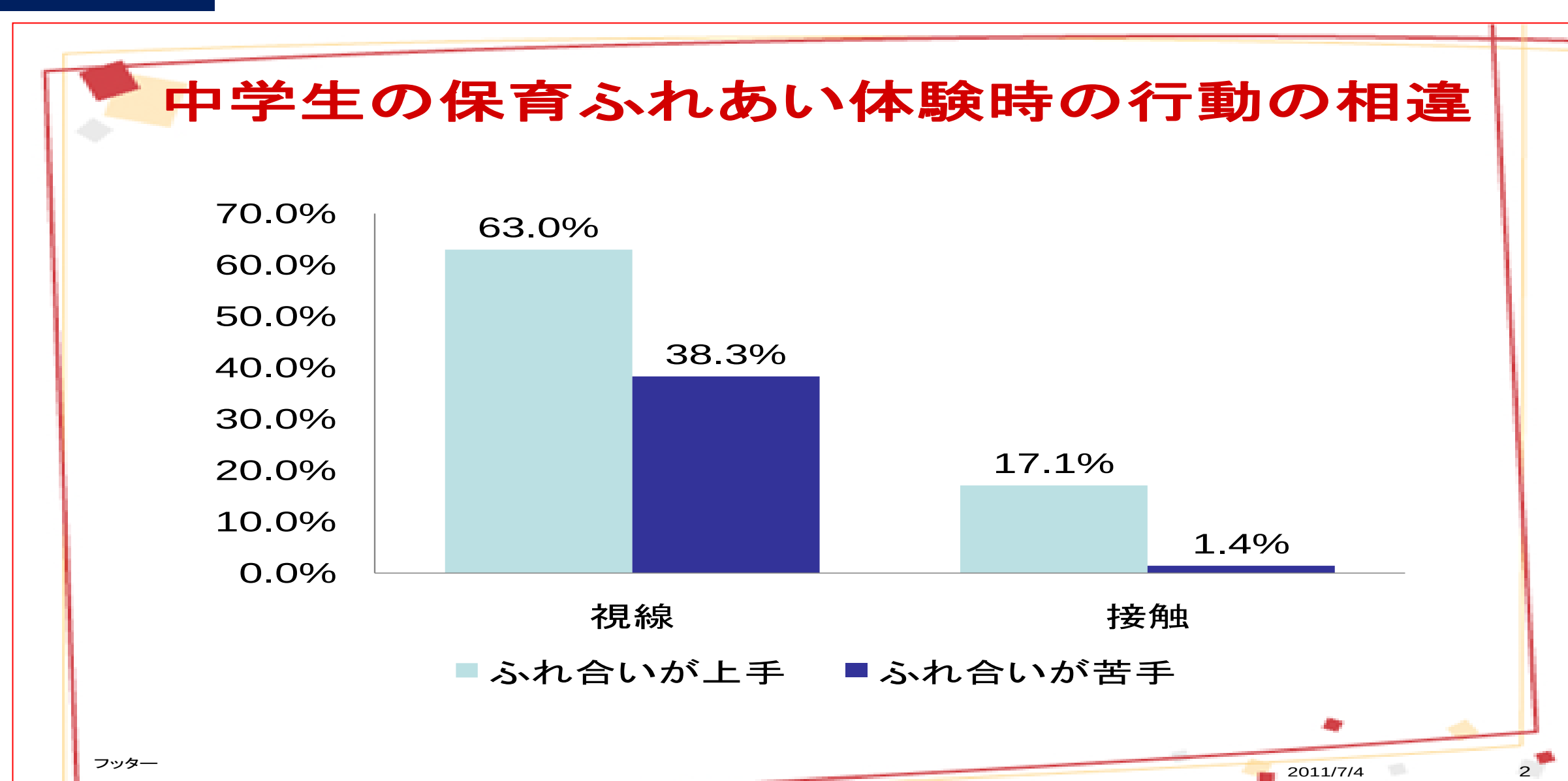
- 主に、子どもをにいかかわる研究をしています。
- 幼稚園や保育園などの就学前施設の子どもの遊びや生活の様子を観察して、乳幼児の世界を探求したり、小学校・中学校の学校現場での子どもの学習場面を観察して、よりよい保育学習について検討したりしています。
- 親や子ども、教師などに質問紙調査やインタビュー調査を実施し、子ども観や教育観、それらと子どもの発達との関連などについて研究しています。
- 教職大学院や博士課程の院生、留学生も研究室に所属しています。
- 様々な知的刺激を得ることができる研究室です。

卒業研究 学術論文・課題研究・博士論文テーマ

□ 中学生のふれあい体験による学び



中学生は乳幼児とふれあい、
何を学んでいるのか



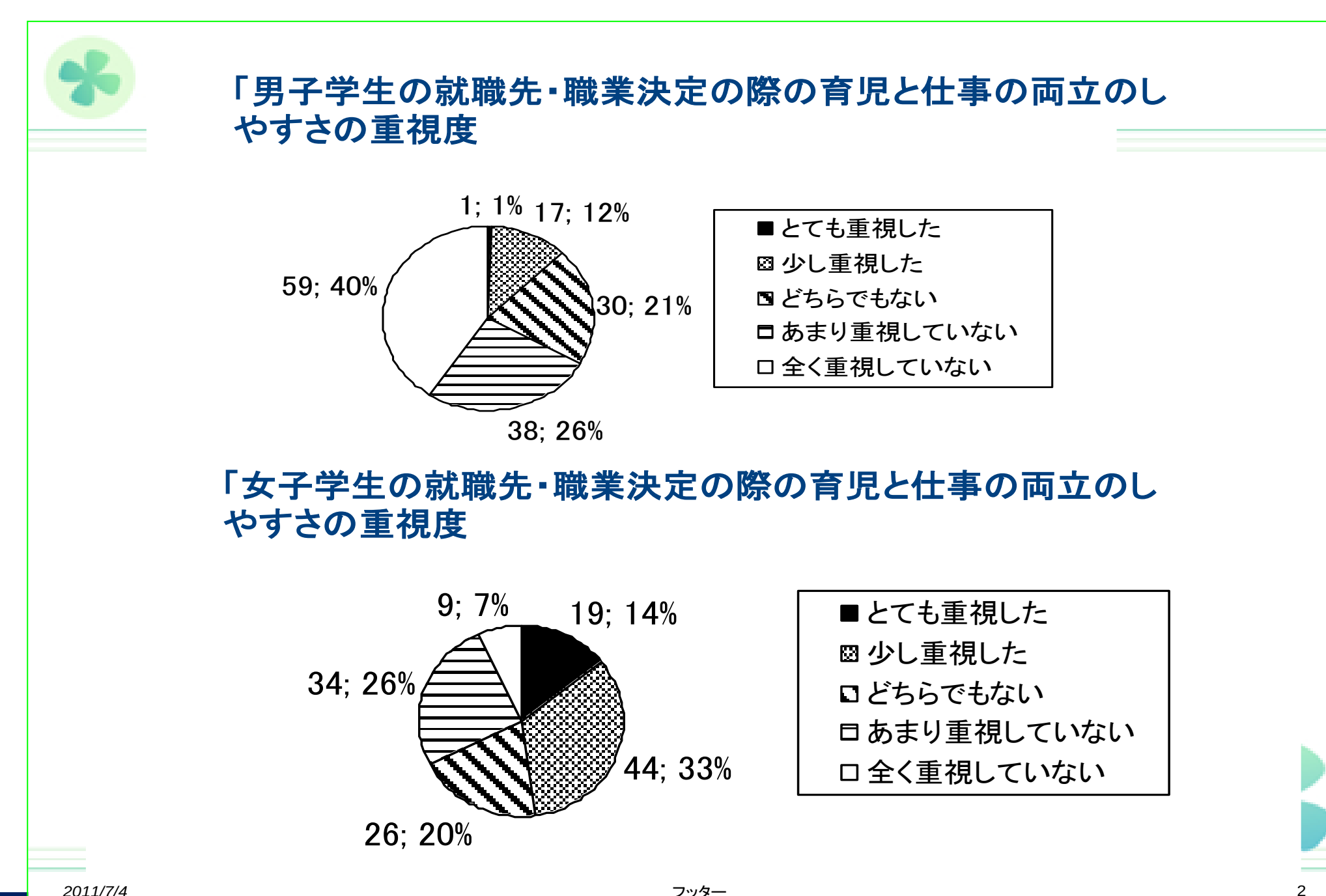
学生の作成したスライド

□ 日本と中国の保育者の いざこざ場面への介入の相違について



中国の幼稚園

□ 男性の育児参加について



学生の作成
したスライド

授業の様子

□ 乳幼児と生活Ⅱ (3年A・B類選択)



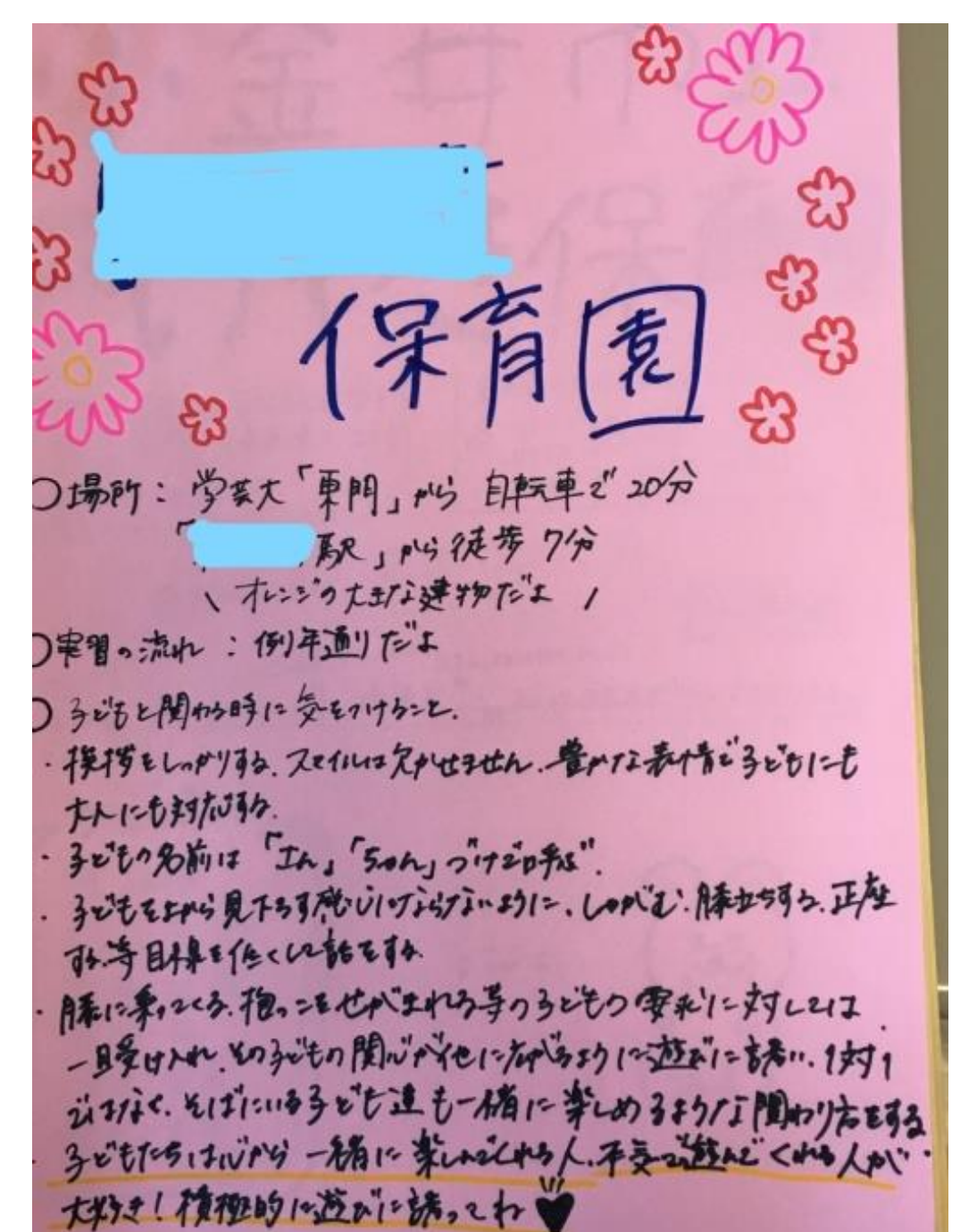
絵本を見たり、赤ちゃん人形を抱っこしたりして、乳幼児の生活について考えます。

□ 児童学概論 (2年A・B類必修)



乳幼児の発達を学びます。
チャイルドビジョンをつけて、乳幼児の視野を経験します。

□ 乳幼児と生活Ⅰ (2年A類選択・B類必修)



保育園に実習に行き、その後、後輩に紹介するための冊子を作ります

専門分野

- **被服学**
衣服の汚れと洗浄
衣服の材料
染色化学と堅ろう度
衣服の快適性
- **環境教育**
衣服を長持ちさせ、
環境負荷をより少なく
するための衣生活の工夫

研究室の特徴

- 「被服学」は、生活者の視点から、衣服に関わる生活の様々な活動、すなわち「衣生活」について科学的に考える学問です。
- 今、被服学は環境問題と深く結びついた分野となっています。環境に配慮した、健康で快適な生活の実現のために、
 - ・衣服の繊維と、汚れ、洗浄剤の化学的な性質
 - ・環境に配慮した染色方法と堅ろう性（色落ちや変色せずしっかり染められたか）等について、実験等を通して研究しています。

卒業研究・修士論文テーマ

- 被服学に関わる実験を行います。環境教育や、学校教育における教材開発と関連させ、発展的に研究することも考えています。

マイクロ波による天然染料の抽出・染色実験

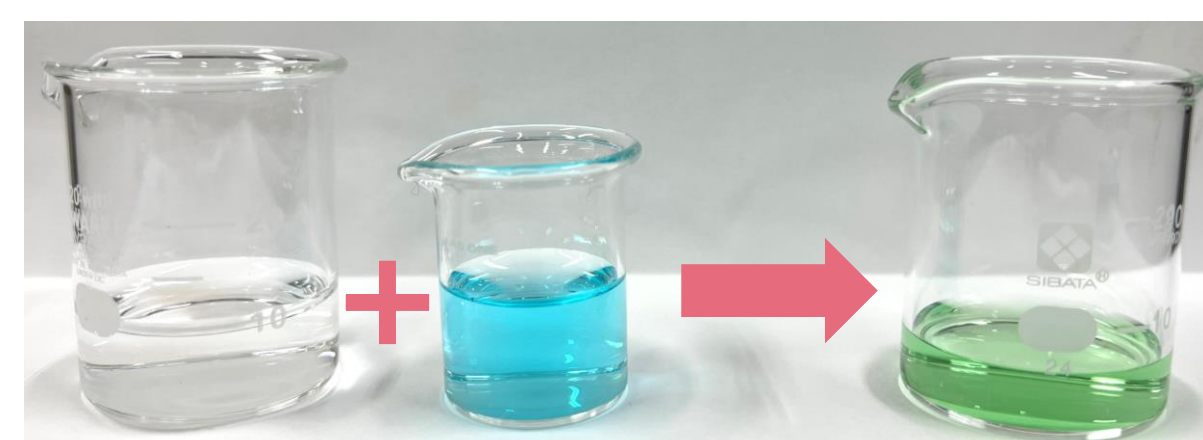
天然染料には、植物と動物がありますが、植物染料を用いています。写真は、左から、藍（乾燥葉）、紫根、紅花、茜、蘇芳、荊安、ウコンで、とても美しい色合いです。



従来、電気やガスで長時間加熱する必要があった天然染料による染色を、電子レンジを用いて、短時間で手軽に行うことを研究しています。染色堅牢度や、染色布の強度について詳しく調べています。

タンパク質汚れの可視化と直接定量

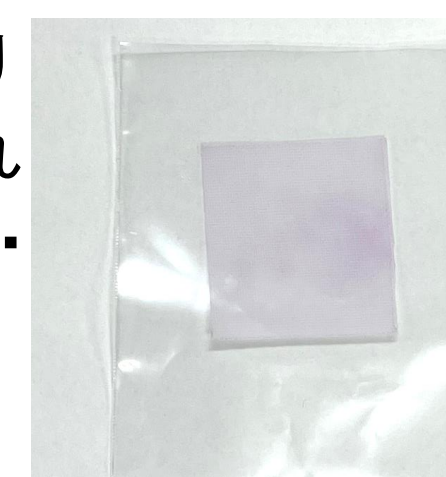
衣服に付着した、目視ではわからないタンパク質汚れを、試薬で発色させて、量がわかるようにします。どの部分に汚れが付きやすいのか？どのくらいついているのか？を、誰もが手軽に、わかるような方法を研究しています。



試薬を混合し、緑色の反応試薬を作ります。あらかじめ指で触れておいた布に滴下すると…？汚れが多い部分は濃い紫色になります。機器で色を数値として測定し、汚れを定量します。



このあたりを指で触れたところ…



反応が
起こり
呈色！



授業の様子

□ 被服学実験・実習A（2年生）



衣服の洗浄、材料に関する実験を中心に、基礎的な基本的な事項を自分たちの手で確かめ、結果を考察します。
上の写真は、衣服に用いられる繊維の形態を顕微鏡観察している様子です。また、漂白剤（塩素系）による実験や、洗剤濃度による汚れ落ちを、表面反射率を測定して求める実験も行います。



- 被服学概論（1年生）
- 被服管理学（2年生）等
講義形式の授業もあります。

□ 被服学実験・実習B（3年生）



実験・実習Aを基礎として、繊維や染料を合成したり、機器を使って、発展的な実験を行います。
写真はオレンジⅡの合成と、ナイロン66の合成です。



どちらも身近な染料と、繊維であり、それらが作られる過程を体験しました。



講義や実験・実習では伝えきれないことを、自主ゼミという形で体験し、自主的に学ぶ機会をつくっています。不定期で、希望者が参加しています。



写真の回では、植物染料「蘇芳」を使って、繊維の種類、染液pH、媒染剤による染まり方の違いを体験しました。毛糸と綿糸（Tシャツヤーン）を染めて、次は布作りです。



専門分野

食物学、栄養学、食育

- ・児童、生徒の健康状態と食習慣・生活習慣との関連
- ・教科横断的な食育授業の開発
- ・大学生の野菜摂取量増加を促す食育プログラムの開発

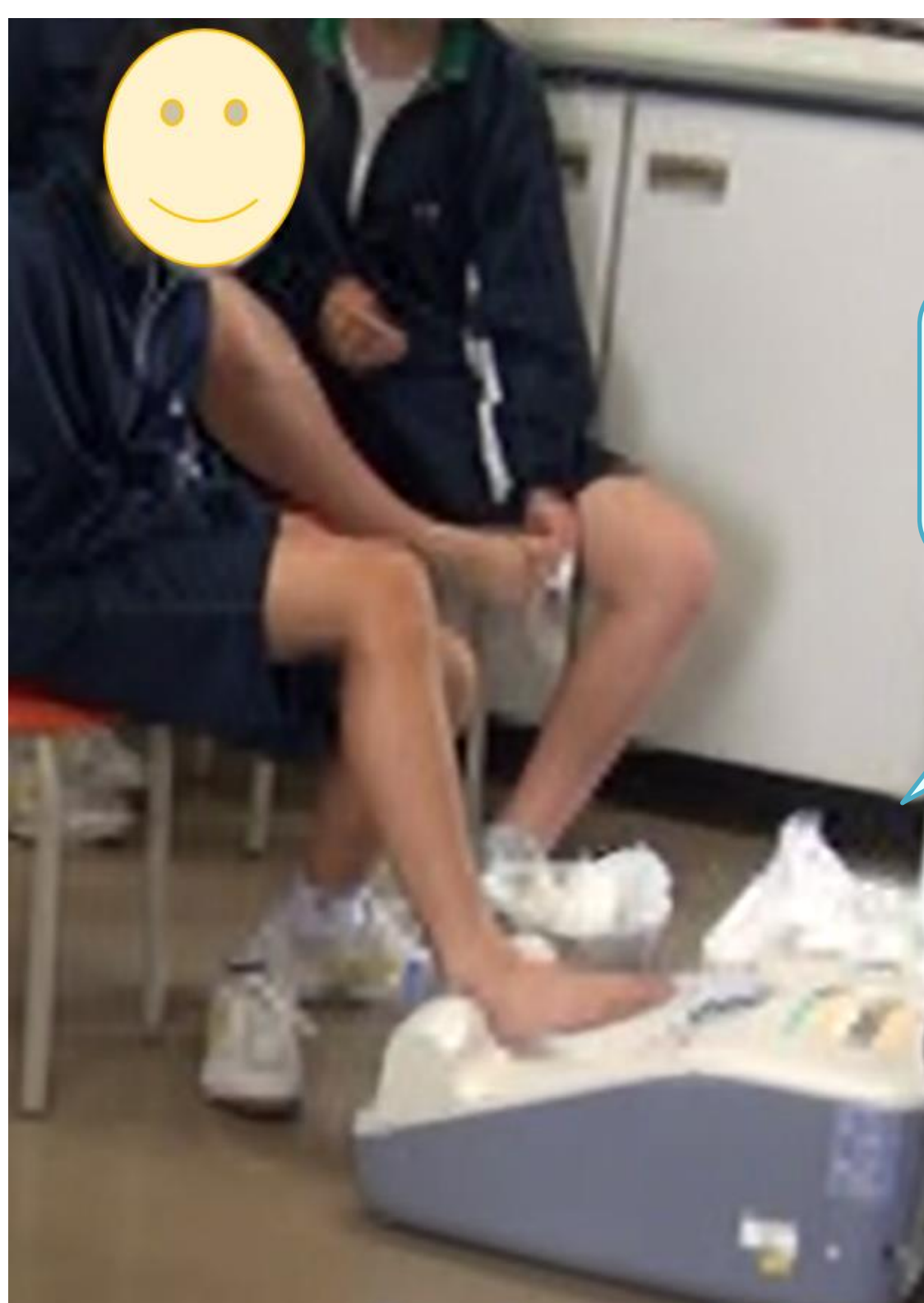
研究室の特徴

- ・「食物学」は、食品、調理、栄養などの視点から、食生活について科学的に考える学問です。
 - ・人々の健康で豊かな生活の実現に向け、
 - ・良好な健康状態の人はどのような生活習慣を送っているか
 - ・健康指標の可視化は対象者の意識、行動の変化を促すか
 - ・家庭科と他教科とを繋ぐ食育をどのように実現できるか
- について実測調査、質問紙調査を行い、研究しています。

卒業研究・修士論文テーマ

- 過去の研究テーマ（前任校）
 - ・中学生における骨量と食習慣・生活習慣との関連
 - ・成長期における骨量測定を取り入れた食育の実践

健康指標（骨量）の可視化



骨量測定器を用いて、踵の骨量を測定しました。

運動頻度が高い人は、運動をほとんどしない人に比べ、骨量が高いことが明らかになりました。

骨量測定の様子

骨量と生活習慣との関連

骨量と運動やスポーツの頻度との関連

運動やスポーツの頻度（体育の授業を除く）	Zスコア（％）
全体 週に3日以上（n=45）	104（96， 111） ^a
週1～2日程度／月1～3日程度（n=18）	104（99， 109） ^a **
しない（n=13）	94（87， 97） ^b
男子 月1～3日程度／週に3日以上（n=21）	99（90， 108） *
しない（n=5）	92（83， 94）
女子 週に3日以上（n=26）	106（99， 111） ^a
週1～2日程度／月1～3日程度（n=16）	104（101， 109） ^a **
月1～3日， しない（n=8）	96（89， 99） ^b

中央値（25％， 75％タイル値）

**： $p < 0.01$ ， Kruskal-Wallis検定

異なるアルファベット間で， $p < 0.01$ で有意差あり（Bonferroniの補正）

*： $p < 0.05$ ， Mann-Whitney U検定

男子は「週1～2回」が0人，「月1～3日程度」が2人と少数のため，「週3日以上」と合わせて解析した。

教科横断的な食育授業の開発 食育授業の概要

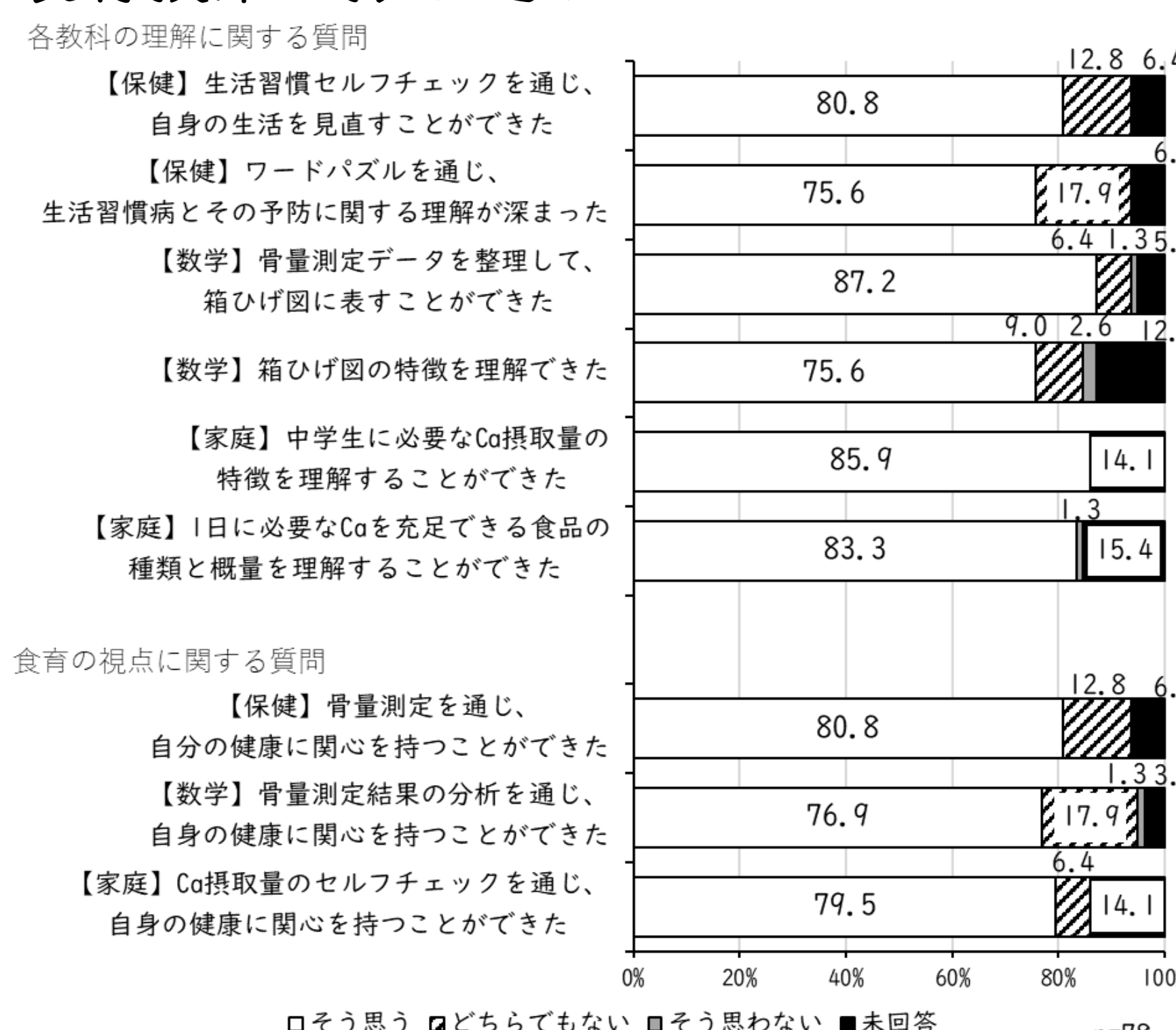
時	教科、領域	「めあて」・主な学習活動、内容	教材、教具等
1	保健体育科 【保健分野】	「生活習慣病を防ぐために、自身の健康を見直そう」 (1) 健康な生活と疾病の予防 (ウ) 生活習慣病などの予防 ・骨量測定 ・生活習慣の振り返り ・生活習慣病に関するワードパズル	ワードパズルの一部
2	数学科	「骨量測定のためのヒントを得よう」 (1) データの活用 (1) データの分布 ・骨量データのヒストグラムを確認 ・生活習慣の異なる属性(運動頻度、給食喫食状況、睡眠時間)別に箱ひげ図を作成	生活習慣別の骨量測定結果
3		ア(ア)四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解すること ・箱ひげ図の比較・特徴の読み取り	板書計画の一部
4	技術・家庭科 【家庭分野】	「骨を豊かにするための食生活の工夫を考えよう」 B 衣食住の生活 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 ア(ア)栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 ・食事摂取基準の読み取り (中学生に必要な栄養素の特徴) ・Ca摂取状況のセルフチェック ・1日に必要なCaを充足できる食品の組み合わせ	食品カード



食品カードを組み合わせている様子（家庭科）

中学生を対象に、保健、数学、家庭科による4時間の食育授業を開発し、実践しました。

食育授業の振り返り



食育授業の感想

記述の概要	人
【保健】	
・自分の骨量が分かってよかった	26
・生活をより良くしていきたいと思った	25
・健康に対する意識が高まった	10
・自分の生活や健康を見直すことができた	6
・生活習慣病への理解が深まった	5
【数学】	
・箱ひげ図について知ることができた	23
・箱ひげ図の特徴が分かった	21
・骨量に関わる生活習慣を考えることができた	17
・データの信頼性を考えるべきだと思った	16
・数学と骨量の両方を考えることができてよかった	8
【家庭科】	
・カルシウム摂取量が不足していることが分かった	25
・カルシウムを積極的にとっていきたい	25
・骨を丈夫にしたい	9

n=78. 複数の分類に該当する場合には、どちらの分類にも含めた。

骨量測定を取り入れた教科横断的な食育授業は、中学生の健康や生活習慣への関心を高めること、各教科の目標を達成しながら食育の視点（心身の健康）を深めることに役立つと考えられました。

授業の様子

食物学実験・実習A

基本的な日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作を学びます。

また、米、小麦粉、卵などの調理性を、実験を通じて確かめます。



基本の日本料理

食物学実験・実習B

ライフステージ毎の栄養摂取の特徴や食生活を取り巻く課題について学びます。離乳期、学齢期、壮年期、高齢期の献立と調理について、実習を通じ理解を深めます。



離乳食（後期）



塩分を控えた食事

専門分野

- **住居学**
住まいの計画
構造・材料
環境・設備
住文化
- **環境工学**
温熱・空気・省エネルギー
- **環境衛生学**
健康と環境の関係

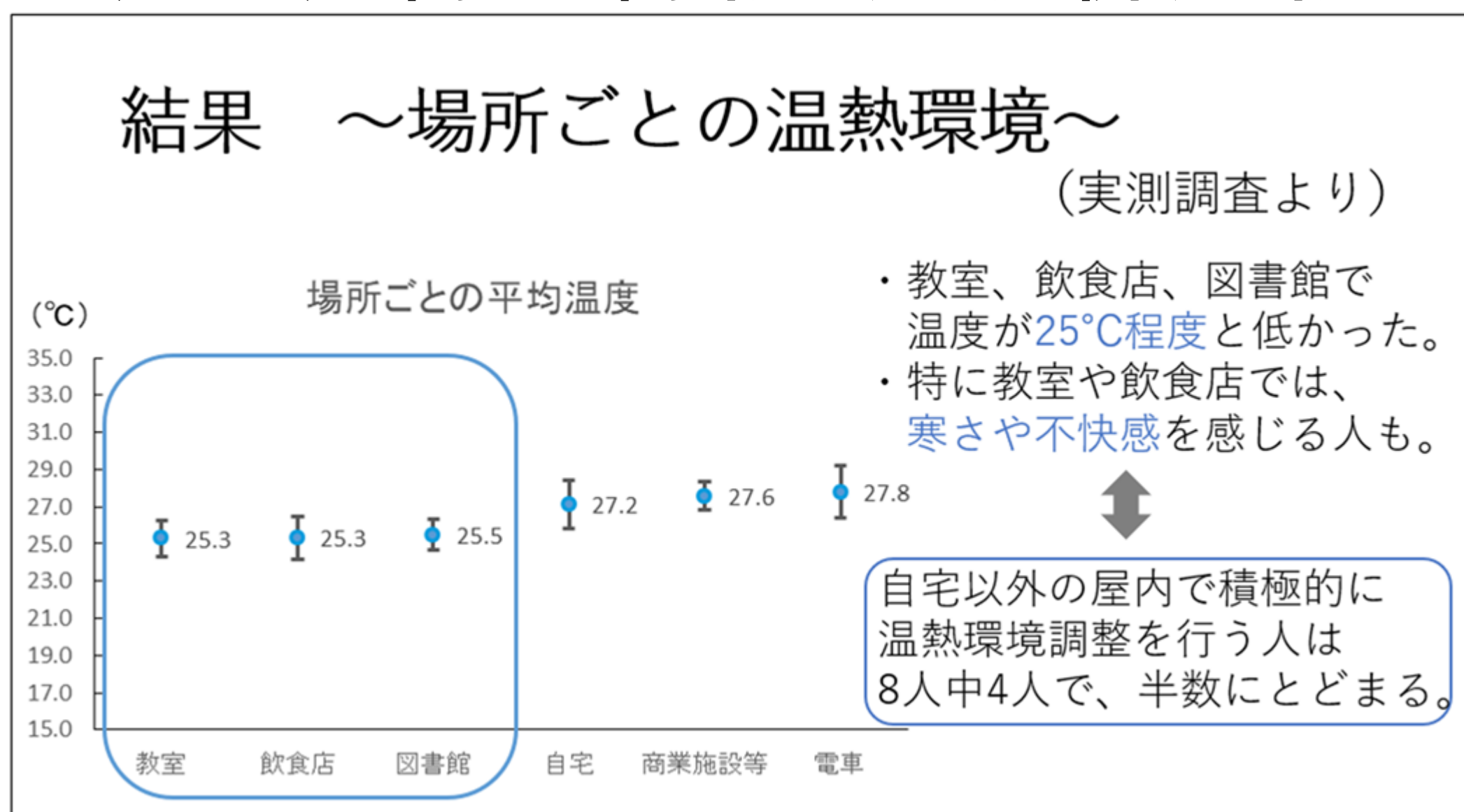
研究室の特徴

- 「住居学」は、生活者の視点から、住まいや暮らしについて考える学問です。
- 健康で快適な生活の実現のために、
 - ・建物や設備機器をどのように工夫したらよいか
 - ・冷暖房を使用するときに気を付けることは
 - ・化学物質、カビ、ダニの対策は
 - ・作業効率を上げる／リラックスできる空間づくり
 - ・環境に配慮した住まい方
 について、アンケート、環境測定、心理・生理実験等を行ない、研究しています。

卒業研究・修士論文テーマ

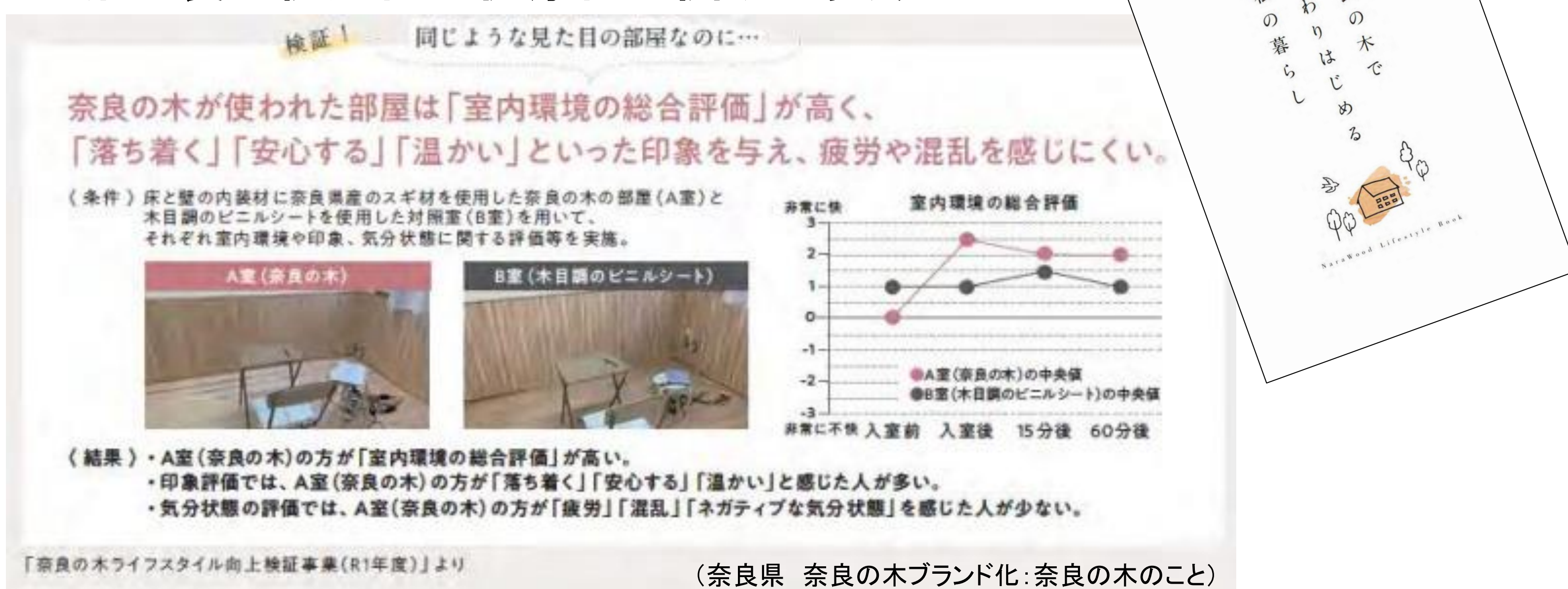
□ 室内環境測定と居住者の健康・住まい方調査

夏期の温熱環境と環境調整方法に関する調査



小型センサーを用いて、周囲温の計測を行いました。教室や飲食店、図書館の温度（冷房使用）が低く、寒さを感じている人もいました。

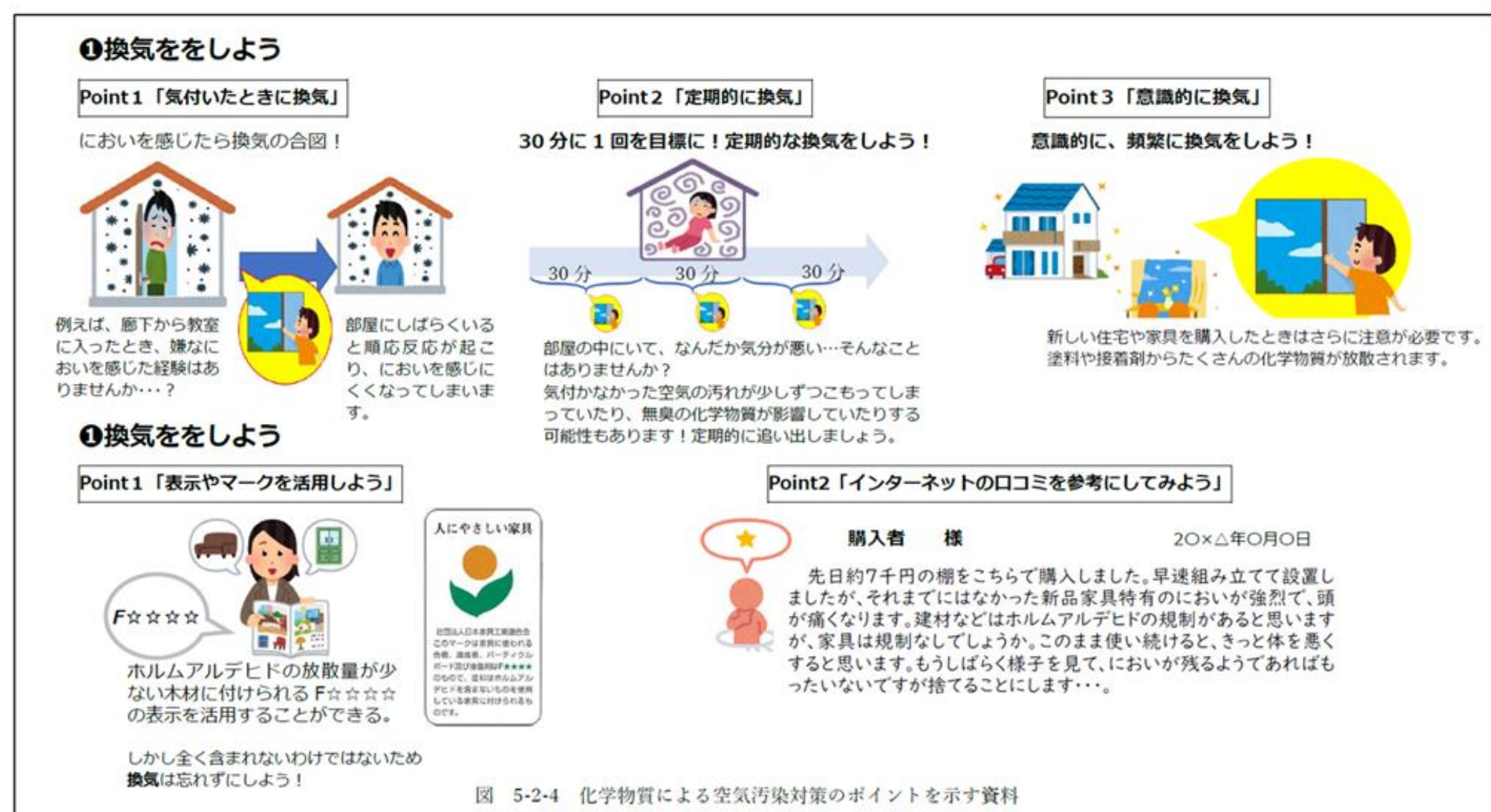
無垢内装の快適性・健康性に関する実験



被験者に無垢材を使用した部屋と新建材を使用した部屋に入ってもらい、環境評価を行いました。奈良県・他大学との共同研究として行い、結果がパンフレットに掲載されました。

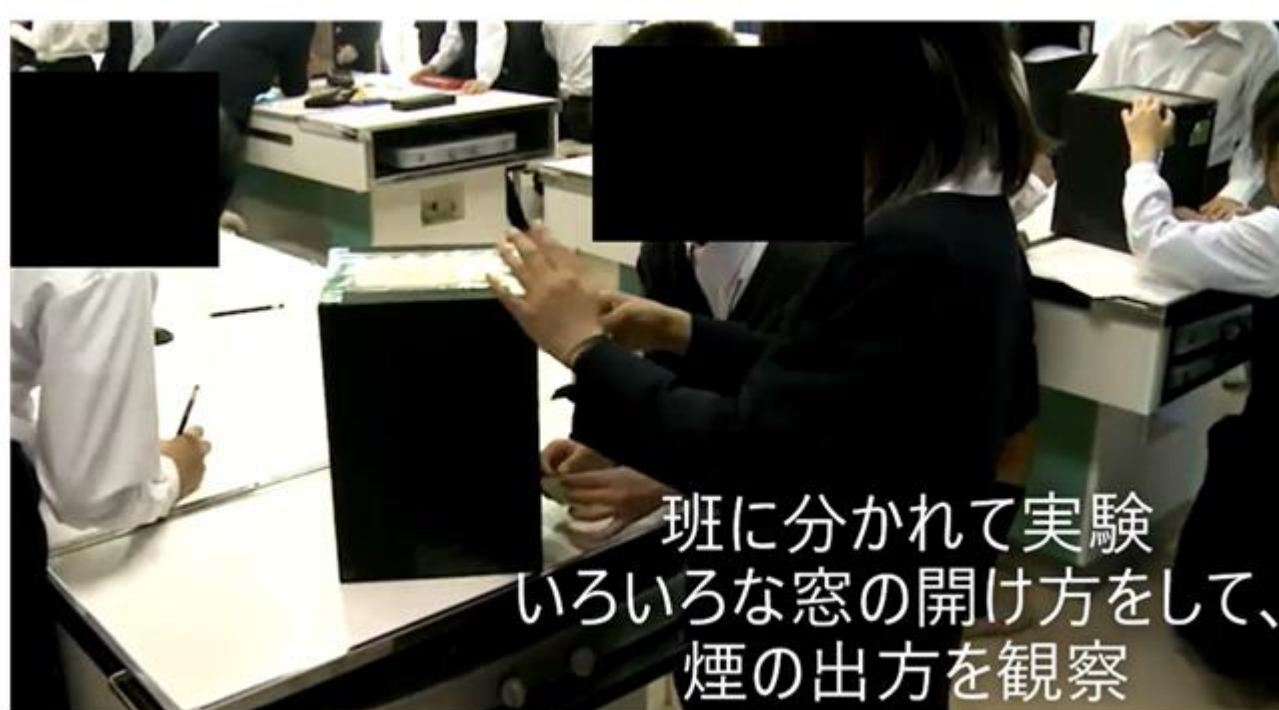
□ 家庭科住生活領域の教材検討・授業分析

中学校家庭科の空気環境についての資料作成



調査データなどを元に、中学校家庭科用の参考資料を作成しました。

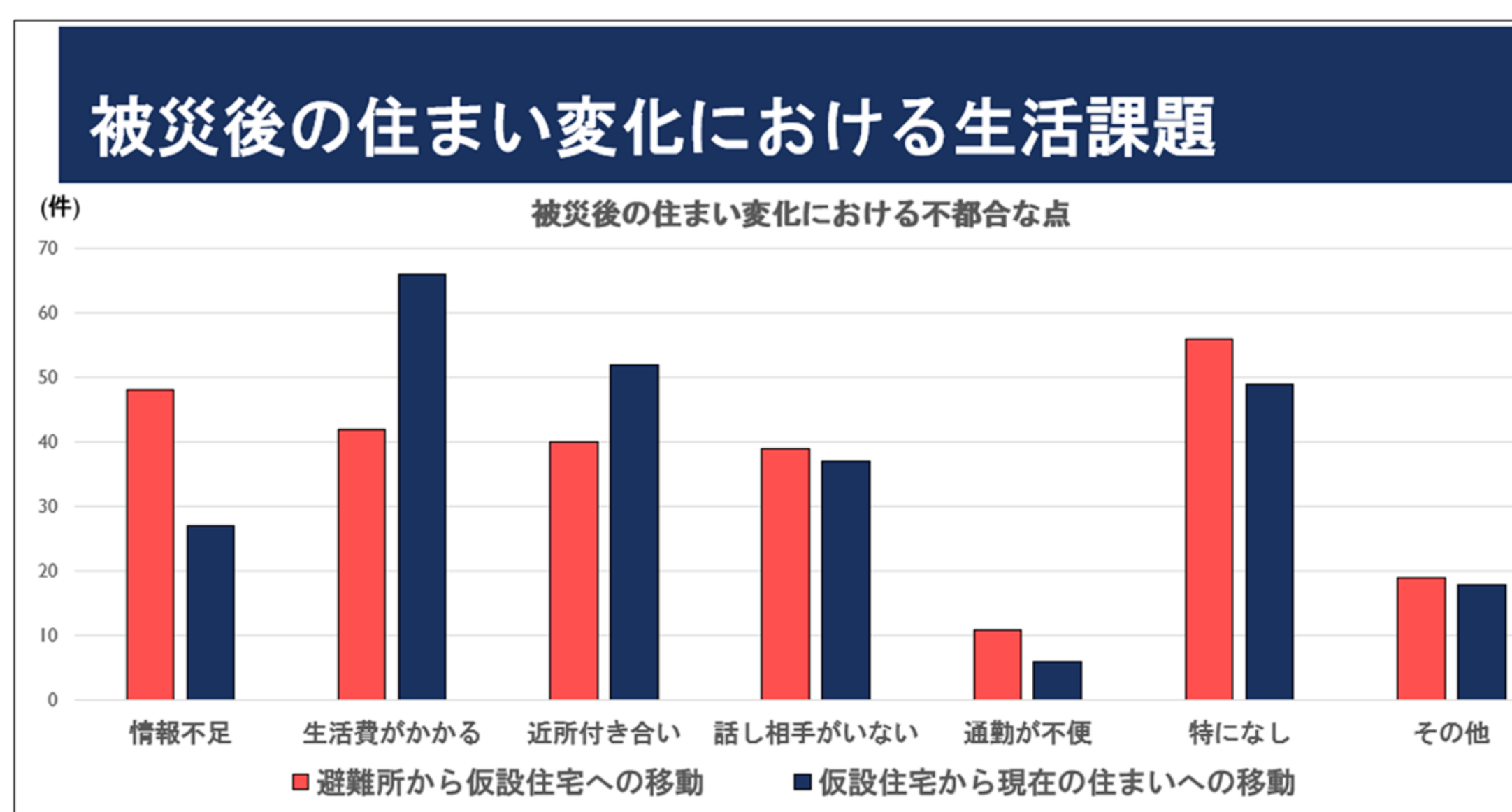
小学校家庭科の換気についての教材検討



換気実験の様子について、授業分析を行いました。

□ 仮設住宅・復興住宅調査

仮設住宅・復興住宅の生活についてのアンケート調査



仮設住宅では情報不足が、復興住宅では生活費や近所付き合いが課題となっていました。

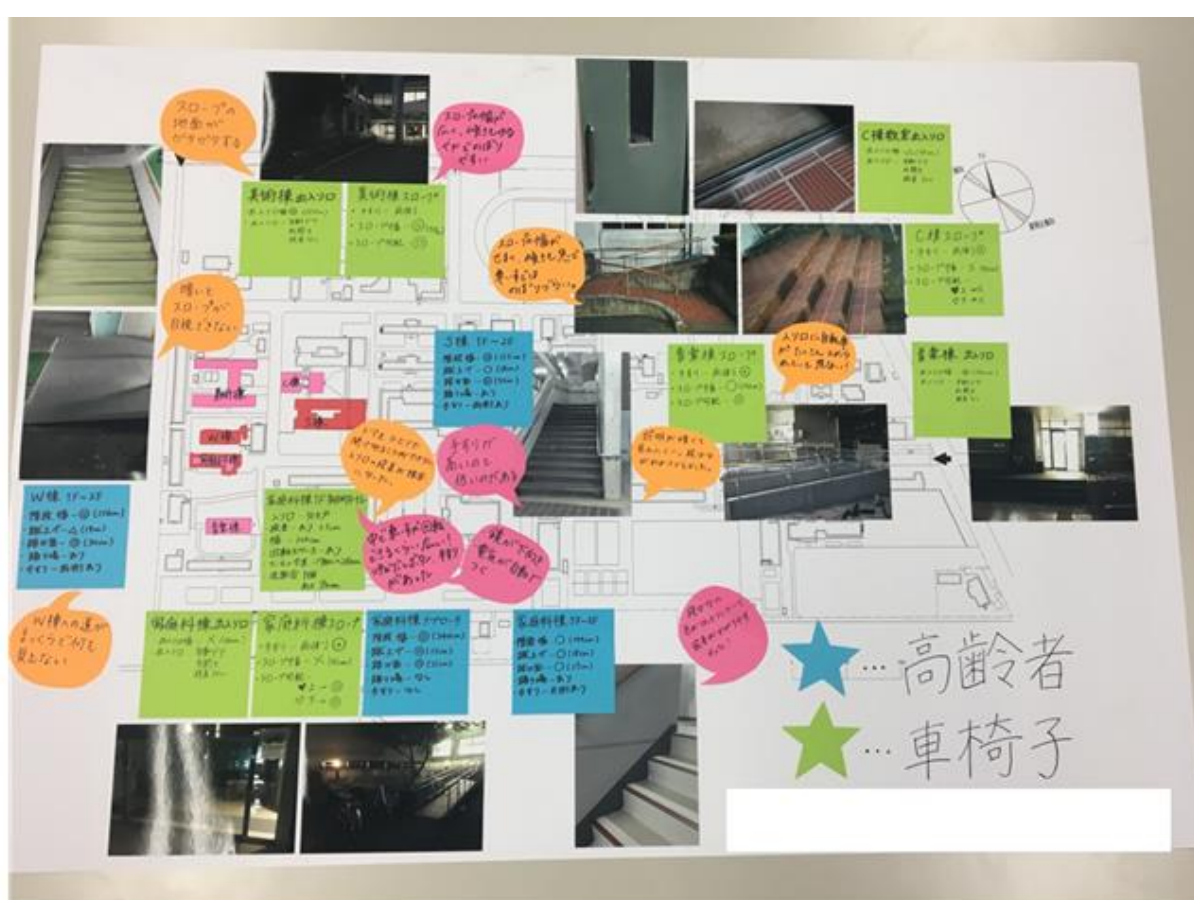
授業の様子

□ 住居計画学 (A類選択・B類必修)



住宅模型の製作

□ 住環境論 (A類・B類選択)

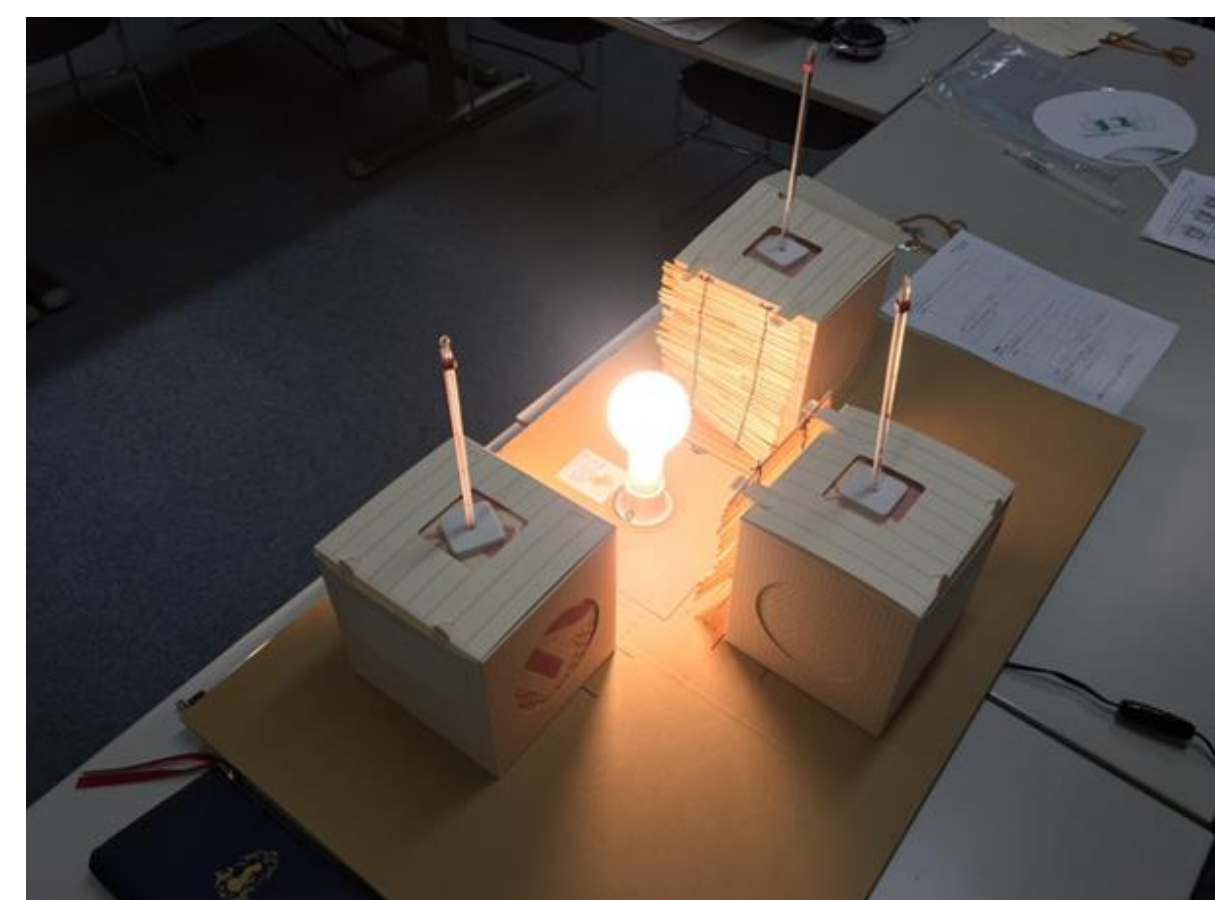


高齢者・車椅子体験と
バリアフリーマップづくり

□ 生活環境論 (A類・B類選択)



調査結果の発表会



日射遮蔽実験

□ 大学院



家族の住まいを
考える教材検討